



TITLE:

<教室通信>各種アンケートから見た電気電子工学科とその学生像

AUTHOR(S):

小野寺, 秀俊

CITATION:

小野寺, 秀俊. <教室通信>各種アンケートから見た電気電子工学科とその学生像. Cue 2014, 31: 69-69

ISSUE DATE:

2014-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/187346>

RIGHT:

教室通信**各種アンケートから見た電気電子工学科とその学生像**

電気電子工学科長 小野寺 秀俊

電気電子工学科では、新入生に対して志望動機や電気電子工学分野への興味を問うアンケート（新入生アンケート）を実施しています。教員に対しても、修士課程修了時点での指導学生の学力や研究力などを問うアンケート（教員アンケート）を実施しています。また、修士課程を修了する在学生に対して、学部教育に対する満足度を調査し意見を求めるアンケート（卒業生アンケート）を実施しています。ここ数年のアンケート結果に基づいて、電気電子工学科における教育研究とその学生像をご紹介します。

新入生アンケートによりますと、電気電子工学科の対象分野に興味があったことが志望理由に含まれる学生は、全体の約80%です。この割合は高いようでもあります。約20%の学生は電気電子工学分野には興味を持っておりません。興味を持つ学生とともに、興味を持たずに入学した学生についても、電気電子工学分野の重要性や素晴らしさを早期に実感させ、本学科での勉学と研究に意欲を持って取り組めるカリキュラムや履修指導が重要だと考えています。なお、電気やエレクトロニクスについて興味を持ったきっかけも聞いていますが、多くの諸君がパソコンや携帯などをその理由に挙げています。筆者の学生時代には、いわゆる「ラジオ少年」が多数いたように記憶していますが、自分でハードウェアを組んだ経験のある学生は非常に少なくなっています。そのため、学生実験など、実際の「物」を扱う課題を重視したカリキュラムを編成しています。

このようにして入学してきた学生諸君は、その約90%が学部卒業後に大学院に進学します。博士後期課程まで進学する人は、学部入学者の約15%です。したがって、学部入学者の多くは修士課程を修了して卒業します。修士課程修了者に対する教員アンケートでは、指導学生の各種のパフォーマンスを尋ねています。その結果、基礎学力や専門的基礎知識の評価は高く、研究力については研究意欲や自主・主体性、粘り強さなどが高く評価されています。一方、語学力や研究活動における計画性などの評価は、それらと比べると低めになっています。学部ならびに修士課程において、世界第一線の研究活動に携わってきたことが、高い研究意欲の源泉となっていると推察します。

次に、卒業生アンケートの結果についてご紹介します。学科で受けた教育全体の満足度を尋ねた質問に対しては、約70%の学生が「大変満足している」もしくは「満足している」と答えています。この割合は、毎年ほとんど同じです。学部教育で良かったと思うところについては、約半数の学生が学生実験と回答しています。その理由は、「電気電子工学の様々な分野の経験ができた」「レポートの書き方や実験手順など、電気電子工学分野の素養が身についた」といったもので、教員側が意図した通りの教育効果を学生自身も実感しています。学生実験に次いで多い理由には、幅広い分野の教育を受けることが出来たことが挙がっています。学部教育については、電気電子工学分野に共通のコアとなる基本的項目を精選して教育するというポリシーに基づき、カリキュラム改革を行ってきました。電気電子の基礎を幅広く学ぶ事の重要性が、修士修了時には理解されているようです。

学部教育については、学生や教員といった学内関係者による評価だけではなく、外部有識者による外部評価も2012年に実施致しました。その結果、教育内容、方法、成果などのほとんど全ての項目で最も高い評価を頂きました。教育効果の高い学生実験や、電気電子工学全般に必須の基礎科目を中心としたカリキュラム編成を行っている事がその理由として挙げられています。

このような学部教育体制は、教務委員会や企画・評価委員会をはじめとする電気電子工学科教員全員の努力の賜です。現在、運営予算の削減や教員数の減少により、特に学生実験の実施体制が厳しい状況に直面しています。教育内容や方法の改革により、教育効果を更に高めるための検討を進めています。教室に関係する皆様方には、引き続きより一層のご支援とご鞭撻をお願いいたします。